

教理研究院

非原理集団の祝福式は、偽りの儀式

UCI・FPA(いわゆる「郭グループ」)およびサンクチュアリ教会は、独自の「祝福式」なる儀式を行っています。非原理集団が行う「祝福式」なる儀式は、非原理的儀式であり、今後、同様の儀式が行われても、私たちはそれに参加してはなりません。なお、これに関連する動画を右のコードで紹介しています。

教理研究院

注、真の父母様のみ言や「原理講論」等は「青い字」で、非原理集 団側の主張は「茶色の字」で区別しています。

(1) UCI・FPA(いわゆる「郭グループ」)の非原理的動き

彼らは二〇二四年二月十七日に、「特別祝福式」なる儀式を行います。この儀式の意義を、彼らは次のように述べます。

- 1. 真の家庭を破壊した罪を悔い改め、贖罪を受ける
- 2. 第4アダムと一つとなって、真の家庭に再連結する
- 3. 天一国創建に向け、責任を果たすことを誓い、再出発する

(2) 「真の父母」を自称する顯進氏の、非原理的言説
文顯進氏は、二〇二四年一月一日午前零時の祈祷で「私たち夫婦が真の父母として祝福運動を再開して、あなたの祝福を全人類に拡張することに今年、着手する」などと祈っており、自らを「真の父母」であると宣言しています。これは看過できない。非原理的主張です。真のお父様は、人類の真の父母は永遠に一組だけであると宣言しておられます。

「真の父母様は一組だけです。」

今、この時の一度だけだということです。過去にもいなかったのであり、未来にもいません。真の父母様が肉身をもって実体で存在するのは、この時だけだということです。永遠の中でたった一度です(「永遠に唯一なる真の父母」97ページ)

「真」という言葉は、代表的であるという意味です。ですから、真の父母というのは、二組はあり得ません。一組しかないのです。過去には存在せず、現在に一組だけ存在し、後代にも存在しません(同、99ページ) 「人類の真の父母」は勝利した。人間始祖のことであり、永遠に文鮮明・真のお父様、韓鶴子・真のお母様です。顯進氏が自らを「真の父母」とする主張は、この原理の本質を理解していない。非原理的主張です。UCI・FPA(いわゆる「郭グループ」)を支持する人々は、韓鶴子・真のお母様が「墮落した」のだと主張します。こ

動画「非原理集団の祝福式は、偽りの儀式」はこちらから↓



の主張も、お母様の位相について語っておられる真のお父様のみ言を無視した非原理的主張にほかなりません。

真のお父様は二〇〇三年三月十日、文総裁ご夫婦は神様と一体となり、完成した夫婦であることを語っておられます。

「今まで霊界では、神様が見えませんでした。今、行ってみれば、霊界の父母の立場で、文総裁ご夫婦の顔が現れて、きらびやかな光で見えるので、顔を見詰めることができなほど、まぶしくなるということです」(「ファミリー」2003年5月号、27ページ)

また「後天時代には、神様御自身が真の父母の姿で万人の前に顕現します」(「平和神経」295ページ)とも言われます。

真のお父様と真のお母様は、神と完全一体となっておられ、この事実が「原理講論」に「個性を完成した人間は、絶対に墮落することができない」(I3

5ページ)とあるように、墮落することは絶対ありません。

その人類の「真の父母」から、神の血統が流れてくるのです。この「神の血統」を相続する儀式が、家庭連合の「祝福式」です。私たちは、神の血統につないでくださる真の父母様を排除し、自分かつてな原理解釈で家庭連合と別行動を取る顯進氏が主催する「特別祝福式」なるものに、今後においても参加してはなりません。

(3) 真の父母様に従わずに「第4アダム」を自称する顯進氏

真のお父様は、真の父母のもとを離れ、別行動を取る顯進氏に対し、二〇二一年陽曆五月二十五日、「真の父母様宣布文」を発表されました。

「全食口は、永遠・永生の世界にたった御一人である真の父母様の指示と命令に絶対に従服しなければならぬことを忘れてはならない!……真の子

女も、一般食口も同様である。

……文顯進をはじめとして、義父である郭錠煥とその一族で構成されたUCI理事陣は、韓国で展開されている汝矣島聖地開発工事に関連するすべての権限を、創始者である真の父母様に返還しなさい」

真のお父様が発表した「宣布文」に、顯進氏らは従いませんでした。真のお父様は、不従順な顯進氏らに対し、同年八月三日、「誰であれ、郭ファミリーに属する者は去るべきである。私(お父様)は郭ファミリーと顯進とは何の関係もない。真の父母は、郭ファミリーおよび顯進とは今後一切関係ありません」と語られました。これは極めて重大で、深刻なみ言です。

顯進氏は自らを「第4アダム」と自称しますが、真のお父様が「第4アダムは顯進である」と語られたみ言は存在しません。そして、「第4アダム」について、次のように語られました。

「地上では祝福を受けた家庭が、真の父母と縦的な関係における第4次アダムの資格をもちます」(「主要儀式と宣布式Ⅲ」211ページ)

(4) 「最終一体」を宣言された真の父母様

真のお父様は二〇一〇年に、真の父母様の「最終一体」を宣言され、二〇二二年四月十四日、米国のラスベガス・天宮宮の特別宣布式で、「天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会を最終完成・完結することを、お父様の前に奉獻します」(「トゥーデイズ・ワールドジャパン」2012年6月号19ページ)と宣

「創造主の資格をもって、最後に万王の王と父母の先祖の中の先祖となりうる勝利の覇権の栄光の宝座に座する人は、億千万代においてただ一つの夫婦(文鮮明・韓鶴子夫婦)であって、二つはいません。夫婦が二つですか、一つですか。万国の王たち、偽者たちがなぜこんなに多いのですか。万王の王は一方です。……女性尊重時代が来ます。お母様を中心として、ひっくり返るのです。男女が同等で対等の価値の実権をつくるのです」(「KMS中和新聞」2012年4月27日号)

真のお父様は、ご自身の聖和なればお母様が責任を持つのです」(「マルスム選集318-2

「真の子女は、真の父母様を中心とする『天の摂理』を妨げる可能性のあることを見抜かれ、このように亨進氏に語るようにされたことが分かる説教です。

「真の子女は、真の父母様を中心とする『天の摂理』を妨げる可能性のあることを見抜かれ、このように亨進氏に語るようにされたことが分かる説教です。

「真の子女は、真の父母様を中心とする『天の摂理』を妨げる可能性のあることを見抜かれ、このように亨進氏に語るようにされたことが分かる説教です。

「真の子女は、真の父母様を中心とする『天の摂理』を妨げる可能性のあることを見抜かれ、このように亨進氏に語るようにされたことが分かる説教です。

60、2000年3月10日」と

明確にされ、「先生が霊界に行けば、お母様が統一教会の教主にならなければならないのではありませんか」(同499-184、2005年7月2日)、「文総裁は衰えるようになりましたが、...第二教主には、お母様が堂々としているでしょう。分かりませんか。夫が成せなかったことを成し遂げなければなりません」(同540-73、2006年9月23日)、「お母様は、お父様よりもっとたくさん行きます。年齢が若いので、私が死んでも教主は問題ありません。もはや、教主は二人が一つになつていくということです」(同541-146、2006年9月28日)と語っておられます。

「真のお父様は、真の父母様の「最終一体」を宣言され、聖和後は、真のお母様に従って全食口が歩んでいくように願っておられます。お父様の願いに従わない子女様たちに、私たちは

「真のお父様は、真の父母様の「最終一体」を宣言され、聖和後は、真のお母様に従って全食口が歩んでいくように願っておられます。お父様の願いに従わない子女様たちに、私たちは

「真のお父様は、真の父母様の「最終一体」を宣言され、聖和後は、真のお母様に従って全食口が歩んでいくように願っておられます。お父様の願いに従わない子女様たちに、私たちは

従ってはなりません。

(5)「次の王はいない」と語っていた亨進氏の変節ぶり

サンクチュアリ教会でも、二〇二四年四月七日から八日に「日本大会」および「祝福式」なるものを予定しているとの情報があります。この「祝福式」なるものも、真の父母様の許可なく、独自に行っている。非原理的儀式です。

文亨進氏は、二〇〇九年一月十五日に挙行された「万王の王神様解放権戴冠式」直後の一月十八日の礼拝説教で、次のように語っていました。

「私たち二世や三世の時代は、いざれ過ぎ去ります。...私が第一に言いたいことは、新しい王はあり得ない、ということ。真の父母様が我々の永遠なる王なのです。あの行事(「万王の王神様解放権戴冠式」)を見て誤解してはいけません。多くの食口たちが私(亨進氏)に

「おめでどうございますー!」「お母様の代身となられてよかったですね」と言うのです。そういうことを聞くにつけ、私はとても心配になります。次の父母様はいないので。次の王も、中心者もいません。真の父母様は私たちの永遠なる中心なのです。私は神学を学んだので、そこが重要なポイントだと信じています。永遠の中心は真の父母様だけです。イエスがキリスト教の永遠の中心であるのと同じです。...皆様もそのような純粋な心で、統一家が純粋なままであるように」

この言動は、顯進氏と同様に、甚だしく非原理的なもので、歴史に汚点を残す。天への逆行行為と言わざるをえません。これらの言動は、真のお父様が二〇一二年四月二十一日の「天地人真の父母様特別集会」で、「創造主の資格をもって、最後に万王の王と父母の先祖の中の先祖となりうる勝利の覇権の栄光の宝座に座する人は、億千万代においてただ一つの夫婦(文鮮明・韓鶴子夫婦)であつて、二つはいません」というみ言に、完全に反するものです。